



本品種は、愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会育種クラブの協力を得て開発しました。

爽やかな黄緑色のスプレーカーネーション新品種 「カーネ愛知8号」を開発 (平成27年5月品種登録出願公表)

愛知県はカーネーションの産出額全国第2位の大産地で、生産者からは商品性の高い多様な花色の県オリジナル品種の開発が望まれてきました。そこで、黄緑色のスプレーカーネーション品種「カーネ愛知8号」を開発しました。

この品種は茎の伸長性が良いため、十分な切り花長が確保でき、開花初期の12

月上旬から、品質の良い切り花が収穫できます。

花は大きめで花蕾数もやや多くボリューム感があるため、花束やアレンジメントとしての需要が見込まれます。

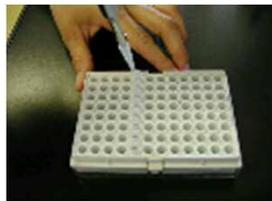
平成27年から「ドリーミーフレッシュ」として出荷されています。

(園芸研究部)

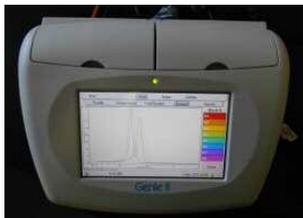
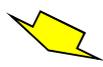
3種類のコムギ土壌伝染性ウイルスを 迅速・正確に同定できるLAMPマーカを開発



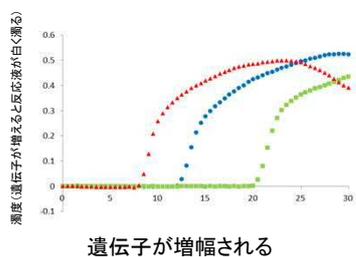
コムギ葉の磨砕液



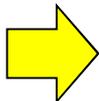
磨砕液をLAMPマーカを加えた反応液に添加



65°Cで45分間保温



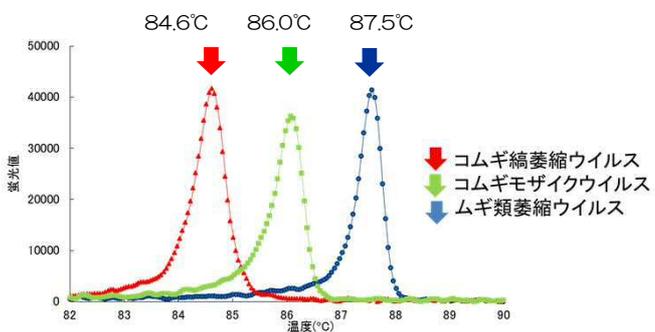
遺伝子が増幅される



解析



コムギ縞萎縮病の発生状況
(左：発病株、右：健全株)
左の発病株は、健全株に比べて葉が黄化して生育が劣っている。



マルチプレックスLAMP法により3種類のウイルスの識別が可能

LAMP法の手順

コムギ葉の磨砕液を用いて65°Cで45分間、LAMP反応を行う

本研究は、「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施しました。

近年、全国で土壌伝染性ウイルスによるコムギの減収が問題となっています。そこで、遺伝子増幅技術の一つであるLAMP法を用い、コムギ縞萎縮ウイルスをはじめ3種類のウイルスについて、同時に迅速・正確に検出する技術を開発しました。

本法は、65°C、45分のLAMP反応で増幅

されたDNAの反応温度の違いを調べることで、3種類のウイルスを同時に診断することができます。

これにより、症状が類似する生理障害と区別し、ウイルス汚染土壌の拡散を防ぐことができます。現在、本法は、ウイルス抵抗性を持つコムギの品種開発にも利用されています。

(環境基盤研究部・作物研究部)

適切な肥育期飼料による系統豚の厚脂対策

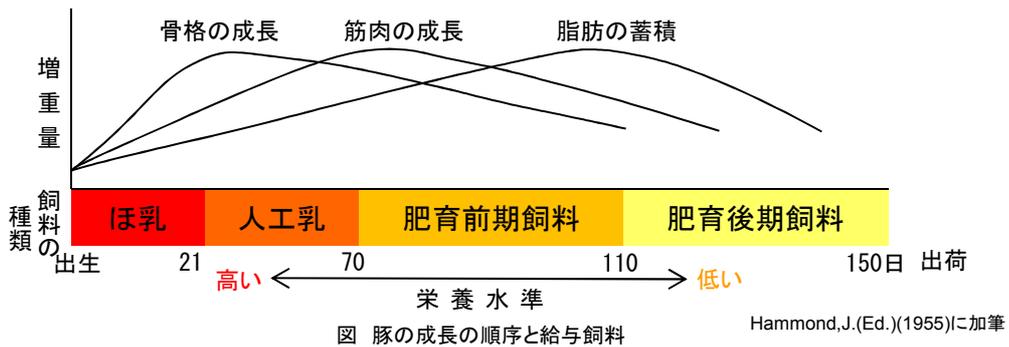
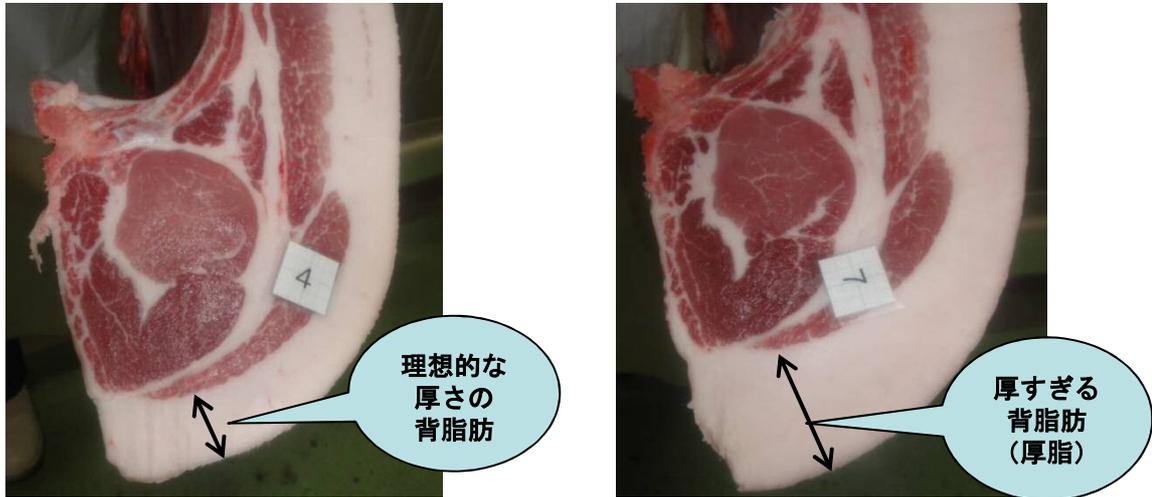


表1 三元肉豚における肥育前期飼料の栄養水準と肥育成績

TDN(%)	75	77	77
CP(%)	15	15	17
出荷日齢(日)	146.8	147.6	147.9
上物率(%)	72.3	45.5	66.7
厚脂(%)	18.2	36.4	22.2

※肥育後期飼料はすべてTDN75%、CP13%を使用した。

表2 三元肉豚における肥育後期飼料の栄養水準と肥育成績

TDN(%)	73	75	77	75
CP(%)	13	13	13	14
出荷日齢(日)	158.0	152.7	150.1	154.2
上物率(%)	27.3	62.5	62.5	63.6
厚脂(%)	45.5	12.5	25.0	36.4

※肥育前期飼料はすべてTDN75%、CP15%を使用した。

県が育種した系統豚は、適度な背脂肪の厚さになるよう改良されていますが、その能力を発揮するためには適切な飼養管理が必要です。

農家では通常、肥育後期飼料のTDN¹⁾水準を調整し、厚脂²⁾による枝肉の規格落ちを防いでいます。しかし、前期飼料の栄養水準も適切でないと厚脂は防ぐことができず、これを下げるにより上

物率を改善できることがわかりました。

系統豚の交配で生産された三元肉豚は、前期飼料がTDN75%、CP³⁾15%、後期飼料がTDN75%、CP13%の組合せで厚脂が少なく上物率は高くなりました。

(畜産研究部)

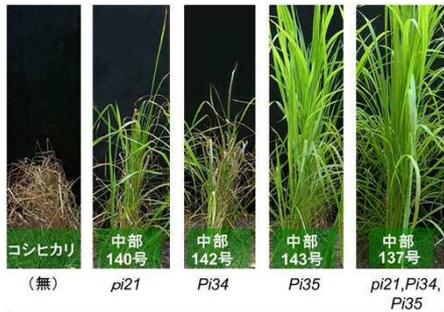
- 1) TDN: 家畜が消化吸収できる飼料中の養分量の合計、エネルギーの指標
- 2) 厚脂: 豚枝肉取引規格において、背脂肪の厚さが2.4cmを越えるもの
- 3) CP: 飼料中タンパク質含量の指標

研究トピックス

イネいもち病圃場抵抗性遺伝子の集積効果が判明

いもち病は稲における最大の病害です。外国稲や陸稲等が持ついもち病の圃場抵抗性遺伝子を「コシヒカリ」に単独または複数個導入した系統を開発し、抵抗性を評価したところ、圃場抵抗性遺伝子を集積すると抵抗性が強化されることが判明しました。今後は開発した系統を活用し、いもち病に強く高温耐性や収量性も改良した品種を育成します。

(山間農業研究所)



導入遺伝子名

開発系統の導入遺伝子と葉いもち抵抗性程度

本研究は農林水産省委託プロジェクト「気候変動に適応したイネ科作物品種・系統の開発」で実施しました。

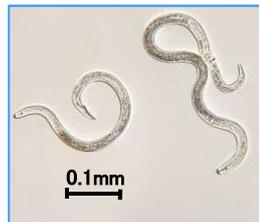
チャ寄生性線虫を愛知県内で確認

愛知県におけるチャ寄生性線虫の実態を初めて明らかにしました。県内茶園42か所の土及び根を調査したところ、43%にあたる18か所からチャネグサレセンチュウが検出され、その分布は県内各地に及ぶことがわかりました。これまで、チャの生育が劣り、湿害が疑われた茶園で、湿害対策を講じても改善されない場合がありますが、今回の調査から線虫の被害が明らかとなり、薬剤処理により改善される可能性が示唆されました。



被害園の症状
多数の花が着生する

(東三河農業研究所)

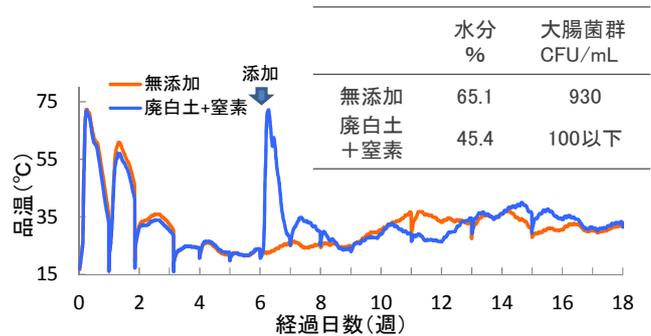


チャネグサレ
センチュウの成虫

油脂の添加により 低水分で良質な堆肥ができます

堆肥の製造課程で廃白土（食用油製造副産物）と窒素を同時添加し、油脂の分解に伴う発熱により、低水分で大腸菌が少ない良質な堆肥を作る技術を開発しました。この堆肥を畜舎の敷料（家畜のベッド）として利用することで、入手困難となっているオガ粉の使用量を減らすことができます。（畜産研究部）

完成堆肥の水分と大腸菌数



油脂添加による品温上昇の効果

大ヨークシャーの系統豚、間もなく完成

本県で維持している系統豚のうち、大ヨークシャー種「アイリスW2」について、後継系統の造成を平成22年度から開始しました。雌系の大ヨークシャー種は、繁殖性の改良を重点に、総産子数、離乳時総体重の優れた系統の造成を行っています。現在、順調に改良が進んでおり、平成28年度の完成を予定しています。（畜産研究部）

改良形質と目標値

改良形質	目標値	平成27年現在
総産子数	11.5頭	11.3頭
離乳時総体重	60kg	61.6kg



造成中の大ヨークシャー

研究短報第114号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>